

予防接種前のチェックリスト

予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に相談する事柄

命を守る予防接種

このチェックリストは、担当の医師や看護師があなたやお子さまに最も適した予防接種スケジュールを決める助けとなります。

予防接種を受ける予定の方が以下に該当する場合は、担当の医師や看護師にお知らせください。

- 今日、体調がすぐれない
- 免疫を低下させる病気（白血病、がん、HIV/AIDS/SCIDなど）にかかっている、または、免疫を低下させる治療（コルチゾン、プレドニゾンなどの経口ステロイド剤、放射線治療、化学療法など）を受けている
- なんらかのワクチン接種後に重大な反応を起こしたことがある
- （何かに対して）なんらかの重大なアレルギーがある
- 過去1か月になんらかのワクチンの接種を受けた
- 過去1年に、免疫グロブリンの注射、なんらかの血液製剤、全血輸血を受けた
- 妊娠中である
- 妊娠を計画しているか、妊娠している可能性がある
- 新生児の親、祖父母または育児担当者である
- ギラン・バレー症候群にかかったことがある
- 妊娠32週以下の早産児である。または、出生時の体重が2000g以下の早産児である
- 腸重積症にかかったことがある、または、腸重積症にかかりやすい先天性異常のある乳幼児である
- 慢性疾患にかかっている
- 出血性疾患にかかっている
- 脾臓の機能が良くない
- 同居者が免疫を低下させる病気（白血病、がん、HIV/AIDSなど）にかかっている、または、免疫を低下させる治療（コルチゾン、プレドニゾンなどの経口ステロイド剤、放射線治療、化学療法など）を受けている
- アボリジニおよび／またはトレス諸島民として認定されている
- 旅行を予定している
- ワクチン接種が必要になりそうな職業または生活要因がある

予防接種を受ける前に、担当の医師か看護師が以下の確認を行います。

- この予防接種に関して提供された情報を理解していますか。
- 接種に進むかを決めるために、さらなる情報が必要ですか。
- あなた／お子さまの予防接種記録をお持ちですか。

あなたやお子さまが受けた予防接種の個人記録を受け取ることは重要です。記録を受け取っていない場合は医師や看護師に請求してください。この記録は、あなたやお子さまが予防接種を受ける都度持参し、医師や看護師に記入してもらってください to 記入を依頼してください。小児保育、幼稚園入園、入学の際、お子さまの記録が必要になる場合があります。

詳細な情報が必要なときは、かかりつけの医師か地域の協議会に連絡してください。

2013年オーストラリア予防接種ハンドブック（第10版）より抜粋

www.health.vic.gov.au/immunisation

この資料の利用しやすい形式での入手をご希望の方は immunisation@health.vic.gov.au にメールでお申し込みください。
ビクトリア州政府（メルボルン市ロンズデール通り）承認済、発行
©保健省2013年4月PH001（1304010）印刷：Finsbury Green

疾患の影響とワクチンの副反応の比較

疾患	疾患の影響	ワクチン接種の副反応
ジフテリア - 飛沫感染するバクテリア。激しい喉の痛みや呼吸困難の症状が出ます。	最大で7人に1人の患者が死亡します。バクテリアは毒を放出し、神経麻痺や心不全を引き起こす可能性があります。	約10人に1人に、接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みや発熱が見られます（DTPa/dTpaワクチン）。DTPaを追加投与すると四肢の腫れが強くなる場合がありますが、数日で完全に治まります。深刻な有害事象は極めてまれです。
A型肝炎 - 糞便で汚染された水/食料への接触、摂取や、A型肝炎感染者の糞便への接触を通じて感染するウイルス。	10人の成人患者のうち少なくとも7人に黄疸（肌や目が黄色くなる）、発熱、食欲低下、吐き気、嘔吐、肝臓痛、疲労感が認められます。	約5人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みが見られます。深刻な有害事象は極めてまれです。
B型肝炎 - 主に血液、性的接触、母子間で感染するウイルス。急性の肝臓感染症や慢性感染症（「キャリア」）になります。	慢性キャリアの約4人に1人が肝硬変か肝臓がんになります。	約20人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みが、約100人に2人に発熱が見られます。アナフィラキシーは約100万人に1人が発症します。深刻な有害事象は極めてまれです。
Hib - 飛沫感染するバクテリア。髄膜炎（脳周辺の組織の感染症）、喉頭蓋炎（呼吸障害）、敗血症（血液の感染症）、敗血症性関節炎（関節の感染症）になります。	髄膜炎患者の約20人に1人が死亡し、生存者約4人に1人に脳や神経の後遺症が一生残ります。喉頭蓋炎は急性で、治療を受けない場合の死亡率はほぼ100%です。	約20人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みが、約50人に1人に発熱が見られます。深刻な有害事象は極めてまれです。
ヒト・パピローマウイルス（HPV） - 主な感染経路は性的接触であり、最大で人口の80%が一生のある時期にHPVに感染します。HPVの型の一部は発がんに関連します。	世界全体の子宮頸がんの患者の約10人に7人がHPV-16に、約10人に6人がHPV-18に関連しています。	約10人に8人に痛みが、約10人に2人に接種部位の局所的な腫れや赤みが見られます。最大10人に3人に、頭痛、発熱、筋肉痛、疲労感が見られます。深刻な有害事象は極めてまれです。
インフルエンザ - 飛沫感染するウイルス。発熱、筋肉痛や関節痛、肺炎の症状が出ます。約5~10人に1人が毎年インフルエンザにかかります。	オーストラリアでは、50歳以上のうち3,000人が毎年死亡していると推定されます。5歳未満の子どもと高齢者では入院が増加しています。その他の高リスク群として、妊婦、肥満、糖尿病患者、一定の慢性的疾患にかかっている方などが含まれます。	約10人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みが見られます。生後6か月から3歳の子どもでは、約10人に1人に発熱が見られます。ギラン・バレー症候群は約100万人に1人が発症します。深刻な有害事象は極めてまれです。
はしか - 飛沫感染する感染力の強いウイルス。発熱、せき、発疹の症状が出ます。	はしかにかかった子どもの約15人に1人が肺炎に、約1,000人に1人が脳炎（脳の炎症）になります。はしか脳炎にかかった子どもも10人に1人が死亡し、脳に後遺症が一生残る子どももたくさんいます。約10万人に1人はSSPE（脳の変性）になり、この場合は死亡率100%です。	約10人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みや発熱が見られます。約20人に1人に発疹が出ますが、感染性はありません。MMRワクチンの初回接種後、約2~3万人に1人の割合で血小板の減少（あざや出血の原因）が起きます。深刻な有害事象は極めてまれです。
髄膜炎菌感染症 - 飛沫感染するバクテリア。敗血症（血液感染）、髄膜炎（脳周辺の組織の感染）になります。	約10人に1人が死亡します。生存者のうち、10人に1~2人に四肢の欠損や脳の損傷などの一生の長期的な問題が残ります。	約10人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みや、発熱、易刺激性、食欲低下や頭痛が見られます（結合型ワクチン）。約2人に1人に局所的な反応が見られます（多糖体ワクチン）。深刻な有害事象は極めてまれです。
おたふく風邪 - 唾液感染するウイルス。首や唾液腺の腫れ、発熱の症状が出ます。	約5,000人に1人の子どもが脳炎（脳の炎症）になります。男性（思春期/成人）の約5人に1人が精巣の炎症を起こします。おたふく風邪で不妊症や一生の聴覚喪失になることもあります。	約100人に1人に唾液腺の腫れが出る場合があります。深刻な有害事象は極めてまれです。
百日咳 - 飛沫感染するバクテリア。最長で3か月続く長期間の咳を伴う「百日咳」になります。	百日咳にかかった生後6か月未満の乳児の約125人に1人が、肺炎や脳の損傷で死亡します。	約10人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みや発熱が見られます（DTPa/dTpaワクチン）。DTPaを追加投与すると四肢の腫れが強くなる場合がありますが、数日で完全に治まります。深刻な有害事象は極めてまれです。
肺炎球菌感染症 - 飛沫感染するバクテリア。敗血症（血液感染症）、髄膜炎（脳周辺の組織の感染症）、場合によってはその他の感染症を発症します。	髄膜炎にかかった約10人に3人が死亡します。成人の場合、肺炎の症例全体の3分の1、肺炎の入院患者の最大で半数が肺炎球菌感染症によるものです。	約5人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みや、発熱が見られます（結合型ワクチン）。最大2人に1人に局所的な反応が見られます（多糖体ワクチン）。深刻な有害事象は極めてまれです。
ポリオ - 糞便や唾液を感染経路とするウイルス。発熱、頭痛、嘔吐の症状が出るほか、麻痺につながることもあります。	感染しても無症状の場合が多いものの、まひ性ポリオ患者の最大10人に3人が死亡し、生存者の多くには麻痺が一生残ります。	一般的に、接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みが見られます。最大10人に1人に発熱、泣き、食欲低下が見られます。深刻な有害事象は極めてまれです。
ロタウイルス - 糞口感染するウイルス。胃腸炎になります。重症になる可能性があります。	症状は、軽い下痢から重度の脱水性下痢や発熱とさまざまですが、死につながる可能性があります。ワクチン導入前のオーストラリアでは5歳未満の子どものうち、毎年約1万人が入院し、11万5,000人がGPの訪問、2万2,000人が救急入院を必要としていました。	ワクチン接種後1週間以内に、最大100人に3人に下痢や嘔吐の症状が出ます。ワクチンの初回または2回目の接種後最初の数週間で、乳幼児約1万7,000人に1人が腸重積症（腸閉塞）にかかります。深刻な有害事象は極めてまれです。
風疹 - 飛沫感染するウイルス。発熱、発疹、腺の腫れの症状が出ますが、妊婦が感染した場合は胎児に重大な先天性異常をもたらします。	風疹にかかると、通常、発疹、痛みを伴う腺の腫れや関節の痛みが見られます。約3,000人に1人に血小板減少の症状（あざや出血の症状）、約6,000人に1人に脳炎の症状（脳の炎症）が出ます。妊娠初期に感染した乳幼児10人のうち最大9人に重大な先天性異常（難聴、視覚異常、心疾患）が見られます。	約10人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みが見られます。約20人に1人に腺の腫れ、首の凝り、関節痛や発疹が見られますが、感染性はありません。MMRワクチンの初回接種後、約2~3万人に1人の割合で血小板減少（あざや出血の原因）の症状が出る場合があります。深刻な有害事象は極めてまれです。
破傷風 - 土壌のバクテリア毒を原因とし、痛みを伴う筋痙縮、けいれん、開口障害の症状が出ます。	患者約10人に2人が死亡します。幼児と高齢者でリスクが高まります。	約10人に1人に接種部位の局所的な腫れ、赤み、痛みや発熱が見られます（DTPa/dTpaワクチン）。DTPaを追加投与すると四肢の腫れが強くなる場合がありますが、数日で完全に治まります。深刻な有害事象は極めてまれです。
水痘（水ぼうそう） - 感染力の強いウイルス。微熱、小水疱性皮疹（水疱）の症状が出ます。再発した場合は帯状疱疹になります。	患者約10万人に1人が脳炎（脳の炎症）になります。妊娠中に感染すると、胎児に先天性異常が生じる可能性があります。母親が分娩前後に感染すると、最大3分の1の症例で新生児が重症の感染症にかかります。	約5人に1人に局所的な反応や発熱が見られます。約100人に3~5人に軽い水痘様発疹が出る場合があります。深刻な有害事象は極めてまれです。

Pre-immunisation checklist

What to tell your doctor or nurse before immunisation

health

immunisation for life

This checklist helps your doctor or nurse decide the best immunisation schedule for you or your child.

Please tell your doctor or nurse if the person about to be immunised:

- is unwell today
- has a disease which lowers immunity (such as leukaemia, cancer, HIV/AIDS, SCID) or is having treatment which lowers immunity (for example, oral steroid medicines such as cortisone and prednisone, radiotherapy, chemotherapy)
- has had a severe reaction following any vaccine
- has any severe allergies (to anything)
- has had any vaccine in the last month
- has had an injection of immunoglobulin, or received any blood products, or a whole blood transfusion in the past year
- is pregnant
- is planning a pregnancy or anticipating parenthood
- is a parent, grandparent or carer of a newborn
- has a past history of Guillain-Barré syndrome
- is a preterm baby born at less than 32 weeks gestation, or weighing less than 2000 g at birth
- is a baby who has had intussusception, or a congenital abnormality that may predispose to intussusception
- has a chronic illness
- has a bleeding disorder
- does not have a functioning spleen
- lives with someone who has a disease which lowers immunity (such as leukaemia, cancer, HIV/AIDS), or lives with someone who is having treatment which lowers immunity (for example, oral steroid medicines such as cortisone and prednisone, radiotherapy, chemotherapy)
- identifies as an Aboriginal and/or Torres Strait Islander person
- is planning travel
- has an occupation or lifestyle factor/s for which vaccination may be needed.

Before any immunisation takes place, your doctor or nurse will ask you:

- Do you understand the information provided to you about the immunisation/s?
- Do you need more information to decide whether to proceed?
- Did you bring your/your child's immunisation record with you?

It is important for you to receive a personal record of your or your child's immunisation/s. If you don't have a record, ask your doctor or nurse to give you one. Bring this record with you for your doctor or nurse to complete every time you or your child visit for immunisation. Your child may need this record to enter childcare, preschool or school.

For further information contact your doctor or local council.

Material adapted from The Australian Immunisation Handbook 10th Edition 2013.

www.health.vic.gov.au/immunisation

To receive this document in an accessible format please email: immunisation@health.vic.gov.au
Authorised and published by the Victorian Government, 50 Lonsdale St, Melbourne
© Department of Health, April 2013 PH001 (1304010) Print managed by Finsbury Green

Comparison of the effects of diseases and the side effects of the vaccines

Disease	Effects of the disease	Side effects of vaccination
Diphtheria – bacteria spread by respiratory droplets; causes severe throat and breathing difficulties.	Up to 1 in 7 patients dies. The bacteria release a toxin, which can produce nerve paralysis and heart failure.	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site, or fever (DTPa/dTpa vaccine). Booster doses of DTPa may occasionally be associated with extensive swelling of the limb, but this resolves completely within a few days. Serious adverse events are very rare.
Hepatitis A – virus spread by contact or ingestion of faecally contaminated water/food or through contact with the faecal material of a person infected with hepatitis A.	At least 7 in 10 adult patients develop jaundice (yellowing of the skin and eyes), fever, decreased appetite, nausea, vomiting, liver pain and tiredness.	About 1 in 5 will have local swelling, redness or pain at the injection site. Serious adverse events are very rare.
Hepatitis B – virus spread mainly by blood, sexual contact or from mother to newborn baby; causes acute liver infection or chronic infection ('carrier').	About 1 in 4 chronic carriers will develop cirrhosis or liver cancer.	About 1 in 20 will have local swelling, redness or pain at the injection site and 2 in 100 will have fever. Anaphylaxis occurs in about 1 in 1 million. Serious adverse events are very rare.
Hib – bacteria spread by respiratory droplets; causes meningitis (infection of the tissues surrounding the brain), epiglottitis (respiratory obstruction), septicaemia (infection of the blood stream) and septic arthritis (infection in the joints).	About 1 in 20 meningitis patients dies and about 1 in 4 survivors has permanent brain or nerve damage. Epiglottitis is rapidly and almost always fatal without treatment.	About 1 in 20 has local swelling, redness or pain at the injection site. About 1 in 50 has fever. Serious adverse events are very rare.
Human papillomavirus (HPV) – virus spread mainly via sexual contact; up to 80% of the population will be infected with HPV at some time in their lives. Some HPV types are associated with the development of cancer.	About 7 in 10 cervical cancers worldwide have been associated with HPV-16 and 1 in 6 with HPV-18.	About 8 in 10 will have pain and 2 in 10 will have local swelling and redness at the injection site. Headache, fever, muscle aches and tiredness may occur in up to 3 in 10 people. Serious adverse events are very rare.
Influenza – virus spread by respiratory droplets; causes fever, muscle and joint pains and pneumonia. About 1 in 5 to 1 in 10 people will get influenza every year.	There are an estimated 3,000 deaths in people older than 50 years of age each year in Australia. Causes increased hospitalisation in children under 5 years of age and the elderly. Other high-risk groups include pregnant women, people who are obese, diabetics and others with certain chronic medical conditions.	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site. Fever occurs in about 1 in 10 children aged 6 months to 3 years. Guillain-Barré syndrome occurs in about 1 in 1 million. Serious adverse events are very rare.
Measles – highly infectious virus spread by respiratory droplets; causes fever, cough and rash.	About 1 in 15 children with measles develops pneumonia and 1 in 1,000 develops encephalitis (brain inflammation). For every 10 children who develop measles encephalitis, 1 dies and many have permanent brain damage. About 1 in 100,000 develops SSPE (brain degeneration), which is always fatal.	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site, or fever. About 1 in 20 develops a rash, which is non-infectious. Low platelet count (causing bruising or bleeding) occurs after the 1st dose of MMR vaccine at a rate of about 1 in 20,000 to 30,000. Serious adverse events are very rare.
Meningococcal infection – bacteria spread by respiratory droplets; causes septicaemia (infection of the blood stream) and meningitis (infection of the tissues surrounding the brain).	About 1 in 10 patients dies. Of those that survive, 1 to 2 in 10 have permanent long term problems such as loss of limbs and brain damage.	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site, fever, irritability, loss of appetite or headaches (conjugate vaccine). About 1 in 2 has a local reaction (polysaccharide vaccine). Serious adverse events are very rare.
Mumps – virus spread by saliva; causes swollen neck and salivary glands and fever.	About 1 in 5,000 children develops encephalitis (brain inflammation). About 1 in 5 males (adolescent/adult) develop inflammation of the testes. Occasionally mumps causes infertility or permanent deafness.	About 1 in 100 may develop swelling of the salivary glands. Serious adverse events are very rare.
Pertussis – bacteria spread by respiratory droplets; causes 'whooping cough' with prolonged cough lasting up to 3 months.	About 1 in 125 babies under the age of 6 months with whooping cough dies from pneumonia or brain damage.	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site, or fever (DTPa/dTpa vaccine). Booster doses of DTPa may occasionally be associated with extensive swelling of the limb, but this resolves completely within a few days. Serious adverse events are very rare.
Pneumococcal infection – bacteria spread by respiratory droplets; causes septicaemia (infection of the blood stream), meningitis (infection of the tissues surrounding the brain) and occasionally other infections.	About 3 in 10 with meningitis die. One-third of all pneumonia cases and up to half of pneumonia hospitalisations in adults is caused by pneumococcal infection.	About 1 in 5 has local swelling, redness or pain at the injection site, or fever (conjugate vaccine). Up to 1 in 2 has local swelling, redness or pain at the injection site (polysaccharide vaccine). Serious adverse events are very rare.
Polio – virus spread in faeces and saliva; causes fever, headache and vomiting and may progress to paralysis.	While many infections cause no symptoms, up to 3 in 10 patients with paralytic polio die and many patients who survive are permanently paralysed.	Local redness, pain and swelling at the injection site are common. Up to 1 in 10 has fever, crying and decreased appetite. Serious adverse events are very rare.
Rotavirus – virus spread by faecal-oral route; causes gastroenteritis, which can be severe.	Illness may range from mild diarrhoea to severe dehydrating diarrhoea and fever, which can result in death. Of children under 5 years of age, before vaccine introduction, about 10,000 children were hospitalised, 115,000 needed GP visits and 22,000 required an emergency department visit each year in Australia.	Up to 3 in 100 may develop diarrhoea or vomiting in the week after receiving the vaccine. About 1 in 17,000 babies may develop intussusception (bowel blockage) in the first few weeks after the 1st or 2nd vaccine doses. Serious adverse events are very rare.
Rubella – virus spread by respiratory droplets; causes fever, rash and swollen glands, but causes severe malformations in babies of infected pregnant women.	Patients typically develop a rash, painful swollen glands and painful joints. About 1 in 3,000 develops low platelet count (causing bruising or bleeding); 1 in 6,000 develops encephalitis (brain inflammation). Up to 9 in 10 babies infected during the first trimester of pregnancy will have a major congenital abnormality (including deafness, blindness, or heart defects).	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site. About 1 in 20 has swollen glands, stiff neck, joint pains or a rash, which is non-infectious. Low platelet count (causing bruising or bleeding) occurs after the 1st dose of MMR vaccine at a rate of about 1 in 20,000 to 30,000. Serious adverse events are very rare.
Tetanus – caused by toxin of bacteria in soil; causes painful muscle spasms, convulsions and lockjaw.	About 2 in 100 patients die. The risk is greatest for the very young or old.	About 1 in 10 has local swelling, redness or pain at the injection site, or fever (DTPa/dTpa vaccine). Booster doses of DTPa may occasionally be associated with extensive swelling of the limb, but this resolves completely within a few days. Serious adverse events are very rare.
Varicella (chickenpox) – highly contagious virus; causes low-grade fever and vesicular rash (fluid-filled spots). Reactivation of virus later in life causes herpes zoster (shingles).	About 1 in 100,000 patients develops encephalitis (brain inflammation). Infection during pregnancy can result in congenital malformations in the baby. Infection in the mother around delivery time results in severe infection in the newborn baby in up to one-third of cases.	About 1 in 5 has a local reaction or fever. About 3 to 5 in 100 may develop a mild varicella-like rash. Serious adverse events are very rare.